



# 志木中だより



5月号

平成28年5月2日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

## 風光り、のびゆく季節

校長 飯田 寛

志木中の北側広場からは、浦和所沢線（浦所バイパス）を行き交う車の動きが何となくのどかに見えます。そして、柳瀬川周辺とその向こう富士見市に至る一帯は、まさしく新緑一色です。一年でもっとも清々しい季節を迎えています。



1年生も入学して早1ヶ月、そろそろ中学校に慣れてくる頃かと思えます。小学校とは様々な面で勝手が違い、また学習面では学習量が多い上に進度が速いこともあり、大変さを感じる人が多いかと思えます。しかし、それを乗り切り目の前のことにしっかりと取り組むことこそが、“中1ギャップ”を乗り越えることになるのです。そして、子供たちにはその力は十分に備わっているのです。子供を信じて、親や教師は背中を押していきましょう。



この季節の緑を称して「万緑」（ばんりよく）と言ひ、俳句の代表的な季語にもなっています。中村草田男の名句に、

万緑の中や吾子の齒はえ初むる  
という句があります。緑＝自然と赤ん坊の生命力とが一体となった力強い句ですね。この季節に、子供達には無限の力・可能性を發揮してもらいたいと思っています。

しかし、人間が自分の力を発揮し、伸びるためには、ある条件が必要です。これは、勉強でもスポーツでも、また仕事でも同様です。「伸びる人の共通点」のベスト3をあげてみます。

①素直（謙虚）であること。

②好奇心旺盛なこと。

③忍耐力があり、あきらめないこと。

ご家庭においても、ぜひ話題にしてみてください。ちなみに、本校では今年度、「はい」という素直な返事・挨拶を積極的に奨励し、素直で謙虚な心を育てることに力を注いでまいります。



今年度も保護者・地域の皆様のお力添えを頂きながら、よりよい学校づくりに努めてまいります。よろしく願いいたします。

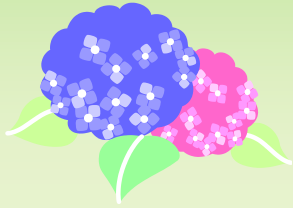


☆ 土と交わる季節の到来！

～かしわ学級の畑作業から～



# 志木中だより



6月号 平成28年6月1日

志木市立志木中学校 志木市柏町 3-2-2 TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

## 「志木市教育大綱」に思う 校長 飯田 寛

志木市にお世話になって6年目になりますが、かねてより私は、校長という立場で、志木市の教育に対してもっと骨太の、将来を見通した根本的な理念を掲げる必要があると市長さんや教育長さんにお話してきました。そして、今年度、新たに「志木市教育大綱」と「志木っ子教育大綱」が策定・提示されました。私はこのことを大きく評価する者の一人です。

「大綱」とは、まさしく根本・おおもとであり、志木市の教育がどこへ向かおうとしているかを示す道標となるものです。その「基本理念」、「次代を担うたくましい志木っ子と地域を支える市民を育む教育」のもと、5つの「基本方針」が定められています。その4つ目に「日本そして郷土を愛し、文化・芸術に親しむ豊かな心を育む教育の推進」という項目があります。教育基本法の趣旨に則った文言ですが、これを市独自の教育大綱として明示したことの意義は大きいと私は思っています。子供たちが、日本人として自国に誇りと愛情を持つとともに、国や郷土の歴史・文化を継承することも大事な責務の一つです。そうした心と姿勢こそが、外国文化の理解や真の国際化に通じるのです。

現行の教育基本法は平成18年に改正されましたが、その大きな趣旨は「私」と「公」のバランスを回復することでした。

個人の尊厳や権利が大切なことは言うまでもありませんが、あくまでもそれは「公」としての義務や責任を果たした上でのことです。「公」の意識とは、自分と他人との関係性の上に立って、自分を社会的な存在としてとらえる姿勢です。そして、それは郷土愛＝祖国愛という精神につながっていくものです。

志木市教育大綱が、根本的な視野に立って提示され、大きな器の中で学校教育や家庭教育、社会教育がなされることが何よりも大切だと思います。ぜひ、共通認識に立っての意見交流を通し、国の将来を背負う子供達をよく育てていきましょう。



☆柳瀬川畔の新緑がまぶしい季節です。



# 志木中だより



7月号

平成28年7月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 人としての「心得」に返る 校長 飯田 寛

昔の学校にはよく「〇〇訓」とか「生徒心得」のようなものがあつたようです。何か堅苦しいイメージが付きまとい、現在ではあまりはやらないようですが、そこには人としての基本的なあり方や行動指針が示されているような気がします。



1997年、第116回芥川賞を受賞した辻仁成氏の『海峡の光』には、函館少年刑務所で毎朝唱和されている「五訓」が書かれていたことを思い出しています。それは次のようなものでした。

- 「はい」という素直な心
- 「すみません」という反省の心
- 「おかげさま」という謙虚な心
- 「させていただきます」という奉仕の心
- 「ありがとう」という感謝の心

人間が人間らしく生きていくための、ごく当たり前の事柄が示されていると私などは思うのですがいかがでしょうか。そして、当たり前のことがあまりにも出来ないというのが現実ではないかと思えます。子供を目の前にして教育に当たる教師や親自身、自らを振り返ることが必要であると強く感じています。

校長職6年目になり、最近とみに思うことは、教職員の指導・育成の大切さです。私が全校集会で生徒に話す事柄は、実は教師自身がかみしめてほしい内容が多いのです。よって、「心得」は、子供だけではなく、教師や親自身が自覚を持って取り組んでいただきたいことなのです。

今ここに、明治に出されたある尋常高等小学校の「教員心得」なるものがあります。全13項目のうち幾つかあげてみましょう。○対話的に教えよ ○少しずつ教えよ ○劣等生を愛せよ ○言葉遣を丁寧にせよ ○自己の長所短所を知れ ○品格を保て・・・現代の教師像に照射した時、私を含め反省する点が多々あり、居住まいを正さなくてはいけないと思っています。

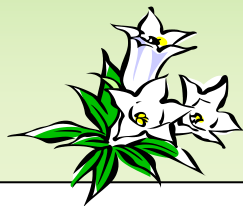


1学期も残りわずかとなり、まとめの時期となりました。この1学期間は大きな事故や事件もなく、学校行事もスムーズに実施され、着実な成果を上げ得たと思っています。また、家庭訪問や教育相談等を通して、家庭と学校との意思疎通に努めておりますが、今後ともぜひ子供のよりよい成長を期して、連携・協力をお願いします。子供一人一人にとって、充実した夏季休業日となるよう、しっかりと計画・準備をして臨んでほしいと思っております。





# 志木中だより



8・9月号平成28年8月29日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 「自分らしさ」を大切に

校長 飯田 寛

真夏日・猛暑日の連続の夏休みでしたが、大きな事件や事故もなく、今日第2学期始業式を迎えることができました。これも、ご家庭や地域の皆様のお陰と感謝しております。長丁場の2学期ですが、数々の学校行事を柱として、一人一人の生徒が自己実現できるよう、よりよい働きかけをしてまいりたいと存じます。2学期もどうぞお力添えをよろしくお願いいたします。

† † † † †

第155回芥川賞を受賞した『コンビニ人間』（村田沙耶香）が話題を集めています。昨年の『火花』に続き、休み中の格好の読書対象になりましたが、今回の受賞作には、様々なことを考えさせられました。

主人公古倉恵子（36歳独身、コンビニアルバイト店員）は、コンビニという「光に満ちた箱」にいる時だけ、世界の「正常な部品」として機能している自分を自覚することができます。そして、「自分は人間である以前にコンビニ店員」であることを宣言し、自分の人生を歩いていこうとします。世間一般の人が求める「普通であること」に疑問を抱き、それを放棄することによって彼女は自分の「生」を実感します。主人公の強烈なキャラクターによって作品世界にのめりこんでしまう作品です。

日本の義務教育は、富国強兵・殖産興業のもと、国のために奉仕できる人間を育てることに大いに成果を発揮しました。そして、その過程で「人間とはこうあるべきだ」という基準を設定し、それを「普通」の目標として子供を叱咤激励してきた傾向があります。その中で、いわゆる「普通でない」状態の中にある、その子なりの良さやその子らしさと言ったものを見逃してしまう危険も相当数孕んでいたように思います。これは、日本の近代教育における大きな反省点であると私は思っています。

人間にとって、人生にとって一体何が「普通」なのか、どうあるべきことで人はよりよく生きられるのか、明確な答えはありません。その答えは一人一人違い、その人の中にしかないからです。人間は、この世に生を受けていること自体に意味があり、尊いものであることを私たちはもっと自覚しなければいけないと思います。そして、一人一人が自分のもつ「自分らしさ」と人にはない自分のよさをもっともっと大事にして日々生きていってほしいと心から思います。今回の芥川賞作品は、私に主人公に対する限りない共感と人生や教育に対する「別のものさし」を改めて感じさせてくれました。



# 志木中だより



10月号 平成28年10月3日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

## 「あきらめ」からの出発

校長 飯田 寛

去る9月10日の体育祭には、保護者や地域の皆様にたくさんの声援をいただき、無事終わることができました。生徒たちの頑張りとお志木中の活気をご覧いただけたことと存じます。そして、いよいよ10月、1日の土曜日からは新人体育大会の地区予選が始まります。2年生を中心に、「志木中」という看板を背負い、志木中生としての誇りをもって戦ってくれるものと信じています。どうか、生徒たちの奮闘ぶりをご覧に、各試合会場にも足をお運びいただけたら幸いです。

☆ ☆ ☆ ☆

突然ですが、皆さんは「あきらめる」という言葉にどの漢字を当てますか？ほとんどの方は「諦める」を当ててでしょう。しかし、この「あきらめる」という語の本来の意味は、「明らめる」つまり、物事の姿や形、本質を明らかにする、見極めるという意味なのです。これは、「諦める」つまり、物事を断念して放り投げるということとは全く違う概念ですね。そして、実は、そこに教育や子育ての本質がかくされていると私は考えます。35年も学校教育に携わってきた者が、あえて誤解を受けることを承知で書きたいと思います。皆さんも「発想の転換」を図るつもりでお読みください。

わたしたちは、とにかく子供に「もっとこうしよう、こうなってほしい、こうなるべきだ」という願いや望みを抱きがちです。事実、日本の教育は、人間を社会に役立つよう改造することに力点をおいてきました。しかし、果たしてそれが本当に子供の幸せになってきたのでしょうか。本来教育は、その子供の姿・形・特性をそのまま受け入れ、よく「明らか」にし、それを丸ごと受け入れるところから出発するのです。そして、子供を「今あるがまま」に幸せにすることが何よりも大切なことであると考えます。よって出発点は「あきらめ」です。過剰な願望・野望は教育を歪め、子育てを苦しいものにします。広く大きな心を持って子供を受け入れ、認めることから出発することが「今」を幸せに生きるコツかと思うのですが、いかがでしょうか。



☆第70回体育祭！最後まで力を振り絞りました。

